

漆、新しき経験

池田巖 1960-2008展

2008年10月4日[土]—11月24日[月・祝]

平素は当館の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、あつく御礼申し上げます。智美術館では10月より、漆と竹を素材に先鋭的な造形を展開する池田巖の展覧会、「漆、新しき経験 池田巖1960-2008」展を開催いたします。つきましては下記の通り展覧会概要をご案内申し上げます。

『漆、新しき経験 池田巖 1960-2008』展

会期 2008年10月4日[土] 11月24日[月・祝]

主催 財団法人 菊池美術財団

協賛 京葉ガス株式会社

会場 菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル
TEL 03-5733-5131 <http://www.musee-tompo.or.jp>

開館時間:午前11時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで)

休館日:毎週月曜日(ただし10月13日、11月3日、11月24日は開館)
10月14日、11月4日は休館

観覧料:一般 1,300円 大学生 800円 小・中・高生 500円
未就学児は無料。 障害者手帳をご提示の方、およびその介護者1名は無料となります。

関連行事

呈茶会・鼎談「池田巖の変貌を振りかえる」

池田巖氏、菊池智・菊池美術財団理事長、林屋晴三・智美術館館長

とき 11月1日(土)午後3時 - 午後4時30分

ところ レストラン ヴォワ・ラクテ(智美術館 階)

会費 お一人様5,000円(観覧料を含む) 各回 50名様(予約制)

対談「『守・離・破』の芸術、あるいは竹と漆の極限へ」

木下長宏氏(近代芸術思想史)、池田巖氏

とき 10月18日(土)午後3時 - 午後4時30分

ところ 智美術館展示室

観覧料にてご聴講いただけます

対談「飛躍する手、飛躍する目」

林卓行氏(美術批評、玉川大学芸術学部准教授)、池田巖氏

とき 10月25日(土)午後3時 - 午後4時30分

ところ 智美術館展示室

観覧料にてご聴講いただけます

作家によるギャラリートーク

とき 11月22日(土)午後2時より

ところ 智美術館展示室

観覧料にてご聴講いただけます

学芸員によるギャラリートーク

11月8日(土)午後2時より

西洋館見学会

当館敷地内の西洋館(登録有形文化財)は、大正時代に建てられた後、保存・修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され今日まで使用されている希少な建物です。通常非公開の内部を展覧会の会期中に下記日程で公開いたします。

11月15日(土)午後2時より

定員20名様(予約制)

お一人様8,000円

*料金には西洋館のご案内(建築家 篠田義男氏)美術館観覧料(学芸員の解説付)レストランでのお茶・ケーキのサービスが含まれます。



《水指》1998

■ 展覧会概要

池田巖(1940-)は、二代池田瓢阿の長男として生まれ、幼い頃から父のもとで竹芸を学び、茶の湯の世界に触れ、優れた古典に親しみました。目や手を通じて記憶した技術や古典的な意匠が、池田の造形感覚の素地をはぐくみました。

東京藝術大学に進学してからは漆芸家の松田権六に師事し、きゅう漆(きゅうしつ)を赤地友哉に学ぶなど、彼の20代は伝統の徹底した習得に費やされました。古典に則った若き日の池田の作品は、早熟とも言えるほどの冴えた技術、研ぎ澄まされた造形感覚に裏打ちされており、今でも驚くほどの新鮮な輝きを放っています。

転機が訪れたのは1987年、47歳のときのこと。茶の伝統から解き放たれ、竹や漆という素材の魅力をひきだした、シンプルながら緊張感を強調した茶器や花入が作りだされました。

そして2005年、池田は再び新しい創作を始めます。漆を塗った竹をたたき割り、引き裂き、「用」をもたない作品が生まれました。それらは竹の強い生命力と漆から発せられる気を放っています。

池田は古典作品や現代の作品、人との出会いなどから積み重ねた経験を、つねに新しい創作に反映させてきました。本展覧会は、3メートル近い大きさの最新作から古典的な茶器まで、作家自選の60点により構成いたします。

漆塗りを主とする漆工技法の事。また単純に漆塗りの工程だけに留まらず素地制作、下地、中塗り、上塗りなどに及ぶ広い工程を含んでいる。



《オブジェ 朱に黒》2006

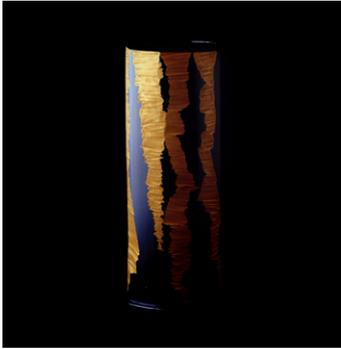
池田 巖(いけだ いわお)

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 1940 | 竹芸家二代池田瓢阿の長男として東京で生まれる | | |
| 1963 | 東京芸術大学美術学部工芸科漆芸卒業 | 1991 | 『茶道大事典』(角川書店)編纂に参加(以後10年) |
| 1970 | 「籠と漆の父子展」(日本橋三越ギャラリー) | 1994 | 「池田巖展 きょう・あす・あさって 茶の器に託す造形」(現代陶芸寛土里) |
| 1974 | 東京国立博物館にて国宝修理に従事(75年まで) | 1997 | 「池田巖展 きょう・あす・あさって 茶の器に託す造形」(現代陶芸寛土里) |
| 1977 | 文化庁後継者養成きゅう漆講習会にて指導 | 2001 | 「池田巖展」(現代陶芸寛土里) |
| 1988 | 「茶器の造形展 きのう・きょう・あした 茶の器に託す造形」(現代陶芸寛土里) | 2002 | 「池田巖 漆芸展」(阿曾美術、銀座) |
| 1991 | 「花入の造形展 きのう・きょう・あした 茶の器に託す造形」(現代陶芸寛土里) | 2005 | 「池田巖展」(現代陶芸寛土里) |

取材お問い合わせ・掲載用写真のご利用について

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、こちらで紹介されている作品を画像データでお貸し出したします。ご希望の場合は図版に を記し、下記申込用紙を返信のうえ、お問い合わせ下さい。

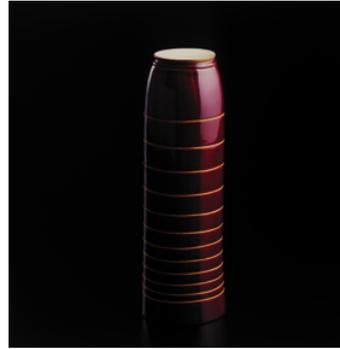
ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までご連絡下さい。画像は本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。



a.《花入》1991年
撮影：小林庸浩



b.《水指》1998
撮影：小林庸浩



c.《茶器》2002
撮影：小林庸浩



d.《オブジェ 朱に黒》2006
撮影：杉山美法

申し込み用紙

| | |
|---------------------------|------|
| 貴社名: | |
| 部署名: | 担当者: |
| ご住所: | |
| TEL: | FAX: |
| Eメール: | |
| 媒体 / 番組名(webの場合はURL を記入) | |
| 発行・放映日等) | |



交通のご案内

日比谷線「神谷町駅」出口4bより徒歩6分

南北線「六本木一丁目駅」より徒歩8分

「溜池山王駅」出口13より徒歩8分

銀座線「虎ノ門駅」出口3より徒歩10分

菊池寛実記念 智美術館

<http://www.musee-tomoo.or.jp>

〒105-0001東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル

TEL 03-5733-5131 FAX 03-5733-5132